

記憶と忘却 ～水俣病を取材する理由～

2013年度水俣学講義 11月21日
熊本学園大学水俣学研究センター客員研究員
NHK記者 東島 大

プロフィール

1966年北九州市生まれ。1991年NHK入局。

＜主な番組＞

・クローズアップ現代(NHK総合)

「特許は誰のものか～問われる社内発明の報酬・青色発光ダイオード訴訟」
(2002年1月30日)

「水俣病 終わらない被害～未認定患者の苦悩～」(2007年7月5日)

「水俣病“真の救済”はあるのか～石牟礼道子が語る～」(2012年7月25日)

・「水俣病証言録1」「水俣病証言録2」(2006年 NHK総合)

・ETV特集

「戦後史証言プロジェクト・日本人は何をめざしてきたのか 第2回 水俣」
(2013年7月13日)

＜著書＞

・「なぜ水俣病は解決できないのか」(2010年 弦書房)

ケビン・カーターのジレンマ

南アの報道写真家

1960年生～1994年死去

1993年

スーダン内戦での写真で
ピューリッツァー賞を受賞



「なぜ写真を撮る前に、彼女を助けなかったのか」

一か月後、自殺

3

チツソは「悪」か？

「企業」「行政」「政治」を糾弾

→正義を果たした気になる ガス抜き効果

→思考停止

→「私とは関係のないこと」

「なぜ事件は起きたのか」

→「チツソは私だった」(緒方正人)

→「私ならどうしたのか？」

「日本人は何をめざしてきたのか」 第2回水俣 復興と公害

【番組意図】

戦後復興から立ち上がった日本を検証し、

東日本大震災以降の日本の進路を考える

・2015年の戦後70年を目指し、3年間・全24回

・1～4回は「地方から日本の復興を見つめる」

第1回「沖縄」 第2回「水俣」

第3回「釧路湿原」 第4回「猪飼野」

「水俣」は復興・経済成長のシンボル

- ・戦前は東南アジア～朝鮮半島に50の工場
- ・従業員8万人
- ・戦争中は軍需工場
- ・戦後2か月で工場再開 昭和24年天皇訪問
- ・昭和31年「もはや戦後ではない」
- ・高度経済成長に欠かせない製品を独占生産

なぜ公害は起きたのか

日本の高度経済成長を止められるのか
 当時経済企画庁・汲田卓蔵氏の証言
「確信犯だ。止められなかった」

—究極のパラドクス—
 「世界中の人々が幸せになる可能性があるが、
 その副作用で、一部の人が不幸になることが確実な発
 明をした。あなたはどうか？」

水俣病を取材する

証言を集めるということ

- (1)取材対象者の絞り込み
 患者・漁師
 官僚
 医師・研究者
 チッソ社員・幹部
 残されたテープの証言(岡本達明氏)
- (2)取材対象者への交渉
 取材意図を説明、数ヶ月に及ぶことも
- (3)インタビュー(ロケ)
 長く複雑な背景、時間かけ丁寧
- (4)インタビューの整理(編集)
 最もトラブルが起きやすい

水俣病を取材する

- ・「難しい」「よくわからない」という先入観
 誤報の温床
 イメージ優先、「今の問題」を見失う
- ・取材者の立ち位置→客観性は担保できるか
 特別措置法の報道検証
- ・中央と地方の対立
 原因解明の遅れに報道も責任？

水俣病を取材する

- ・後藤舜吉 チッソ最高顧問
 チッソ「中興の祖」
 45歳で取締役、水俣病対策を一手に
- ・井形昭弘 元鹿児島大学学長
 水俣病認定基準作成の責任者

「水俣病証言録」

- ・水俣病50年の2006年に、水俣病関係者50人のインタ
 ビューを毎週放送
 →証言記録の重要性
- ・特別措置法めぐる政治の動き追う
 →記録と、リアルタイムの報道のリンク
 番組を通し、チッソと政治家の駆け引きも
- ・「なぜ水俣病は解決できないのか」として出版
 →記録のマルチメディア展開

水俣病報道の今

最高裁判決

- 今年4月
- ・水俣病の病像を定義づけ
 - ・「行政の裁量ではない」

環境省

- 「判決は認定基準否定していない」
- 「運用の問題」



水俣病報道の今

不服審査会裁決

10月、環境省の「不服審査会」が認定を棄却されていた男性を水俣病と認定。
「ひとつの症状だけで水俣病」
「最高裁判決を定義づけ」
「認定基準に適合しなくても認定」



環境省
「個別のケースに過ぎない」

13

水俣病報道の今

「水俣条約」国際会議

安倍首相
「水銀による被害と
その克服を経た我々」

蒲島知事
「克服という段階ではない」

国際会議というセレモニー



水俣病報道の今

全国豊かな海づくり大会



初の水俣訪問
(昭和天皇は2回訪問)
水俣病への関心

皇室と水俣病という問題

15

水俣病報道の今

・ チッソ分社化問題

チッソは消滅するのか
残る負債はどうなる
フクシマの
「お手本」になるのか



・ 水俣湾埋め立て地の今後

巨額の負債は次の世代へ

16

記憶と忘却

- ・ 「忘れてはいけない」というが.....
- ・ 複雑な問題を単純化すること
- ・ 「水俣民衆史」岡本達明の仕事
- ・ 記憶の引き出しを整理し、歴史の判断に耐えられる形に整えるために

17

参考

「日本人は何をめざしてきたのか」アンコール放送 (Eテレ)
1月2日深夜(実日1月3日)
午前1時20分～「第1回沖繩」／午前2時50分～「第2回水俣」
1月3日深夜(実日1月4日)
午前1時～「第3回釧路湿原」／午前2時～「第4回猪飼野」

<参考資料>

映画「ハンバン・クラブ 真実の戦場」

「水俣病民衆史」岡本達明 草風館

「なぜ水俣病は解決できないのか」東島大 弦書房

東島大連絡先 winter1966@gmail.com

18